

超高齢化社会を迎える中、公的施設のバリアフリー化は避けて通れない。ただし、お金の使い途については慎重の上にも慎重を！

**山口議員**

(1) 公民館建設及び改修などに対する助成金の増額について

現在、上限500万円の中で、工事費の中にバリアフリー化を取り入れる場合、例えば助成率を70%か80%に設定するなどして助成費の増額が実施できないか。

(2) 市民プロジェクト事業について

2年間の実施期間が過ぎ、各地区にて有意義な取り組みがなされたことと思うが、各地区から事業継続の要望も出される中で、平成22年度以降について、予算措置も含めた事業継続を実現できないか。

市長(1) 高齢化が進む中、施設が不便であることを理由に公民館活動から疎遠になってしまうことは非常に残念なことであり、各公民館においてもバリアフリー化の早期実現が望まれているところだと思ふ。大村市公民館連絡協議会からも陳情があったが、市としても、高齢者や障害者をもとより、地域住民のだれもが活用しやすく利便性の高い町内公民館づくりの促進をこれまで以上に図りたいと思っており、バリアフリー化に対する助成制度を検討している。具体的にはまだ決定していない

が、例えば目安として100万円程度の小規模にして、7割から8割程度の補助をするようにできれば広く活用してもらうことができ、バリアフリー化が進むのではないかと考えている。  
財政部長(1) 既存の増改築に対する補助制度とのすみ分け、限度額、補助率など具体的な内容については、現在、検討中である。  
市長(2) 平成20年、21年度とそれぞれの地区で様々な取り組みがなされ、成果があった。このままで終わるのは余りにもつたない。また、三浦地区、鈴田地区、萱瀬地区など



三浦かんさく祭

を中心に、各地域から、ぜひ継続していきたいという熱意が感じられている。22年度以降も継続をしていく方向で検討をしている。

**(その他の質問事項)**

- ・出張所へのエレベーター設置について
- ・周辺部4幼稚園の認定子ども園への移行について
- ・西部地区堆肥化施設について
- ・デマンド方式乗合タクシーの導入について



**新年度の予算編成 歳入の見込みは**

**伊川議員**

(1) 新年度における歳入の見込みと予算編成について

景気が悪化の一途をたどる中、国の新年度予算の基本方針もまだ決まらず不明な点も多いと思うが、当初予算について歳入の見込みはどのようなと考えているか。また、国の事業仕分けによる本市への影響は、およそ40の事業に及ぶと考えられるようだが、現在取り組

(2) 親和銀行跡地について

見直しはあるか。親和銀行跡地を購入する計画があるが、現在用地交渉の状況はどのようなになっているか。また今後の経過はどうなるのか。現在の建物を撤去した状態で購入費が約1億円というが、元々の計画にない財政で持ちこたえられるのか。

み中の財政健全化計画の見直しはあるか。

**市長(1) 新年度の予算編成について**

政権交代による国の動向が気になるが、現時点では10月に定めた予算編成方針に基づいて作業を進めている。

**直す必要も出てくると思ふ。**

副市長(2) 現在、土地開発公社で購入するよう準備を進めており、鑑定評価をお願いしている。今後その鑑定評価を参考にしながら、親和銀行と交渉を進めていきたい。

**企画部長(2) 土地開発公社で**

土地を取得した後については、用地の利用計画を明確にした段階で市が買戻すことになる。今の段階では平成25年度までにやりたいと思っている。

**財政部長(2) 現在の健全化計画は、**

税収の微増という見込みで立てており、リ

マンシヨック等の予測をしていなかった影響もあるが、結果としては、平成20年度はある程度クリアし、今年度もクリアできると見込んでいる。ただし、親和銀行跡地の整備や多目的スポーツ広場など、健全化計画に含まれていない大きなものがある。しかし、それらの事業は、国の補助や起債を活用するので、単年度で大きな負担がかかるということではない。それらを例えば15年、20年という期間の中で整理し、健全化を図っていききたいと考えている。

**(その他の質問事項)**

- ・公共施設のバリアフリー化は建物の診断と合わせて計画的に進めるべき
- ・桜田の堀の改善について
- ・地域の取り組みを観光に生かす施策について
- ・子どもの体力づくりについて
- ・学校給食調理場について

